

文学部A方式Ⅰ日程・経営学部A方式Ⅰ日程・人間環境学部A方式
GIS（グローバル教養学部）A方式

3 限 選 択 科 目 （60 分）

〈注意事項〉

1. 問題冊子・解答用紙では試験科目名を以下のとおり表記している。

科 目 名	表 記	ページ	科 目 名	表 記	ページ
公共, 政治・経済	政治・経済	2～29	歴史総合, 日本史探究	日 本 史	30～44
歴史総合, 世界史探究	世 界 史	46～60	地理総合, 地理探究	地 理	62～70
数学Ⅰ・Ⅱ, 数学A・B・C	数 学	72～77			

2. 試験開始の合図があるまで, 問題冊子を開かないこと。
 3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
 4. 科目の選択は, 受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。
 一度選択した科目の変更は一切認めない。
 5. **数学**については, 定規, コンパス, 電卓の使用は認めないので注意すること。
 6. マークシート解答方法については, 以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では, 鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆, ボールペン, シャープペンシルなどを使用しないこと)。

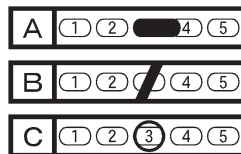
記入上の注意

1. 記入例 解答を **3** にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は, 消しゴムでよく消してから, あらためてマークすること。
 3. 解答用紙をよごしたり, 折りまげたりしないこと。
 4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

7. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世 界 史)

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

「エジプトはナイルのたまもの」である。とある古代ギリシア人歴史家が書き残したこのことばのとおり、古代エジプト世界の発展は世界最長の大河であるナイル川⁽¹⁾の存在に多くを負っていた。なかでも、流域において営まれた豊かな農業は、この地に暮らす人々に共同体の形成を促した。小規模な共同体は次第に統合されてゆき、最終的にはファラオと呼ばれる王を頂く統一国家の誕生へと至る。後の時代、エジプトの各地には地方行政上の単位として A が設けられることとなるが、その原型は統一国家が形成される以前に分立していた部族国家に求められる。ファラオは、こうした諸部族国家の連合体の指導者として出現したのである。

前3000年頃とされる統一国家の形成期、王権がどの程度強力なものであったかについては判然としない。元来の部族国家分立状態を考えるならば、王による支配を確固たるものにするまでには、相当の時間を要したことが推測される。けれども前27世紀以降、古王国と称される時代を迎える頃には、王の権力は絶大なものとなっていたといえよう。このことをとりわけ明白に示すのが、ピラミッド⁽²⁾なる巨大構造物の建設である。最大規模のピラミッドを建造させたとされる王は B であり、彼の後を継ぐ王たちのピラミッドとともに、ナイル川左岸に位置するギザの地で今なおその威容を誇っている。

古王国時代が終わりを迎えると、古代エジプト世界は二つの王朝が並び立つ混乱期へと移行する。しかしながら、その後再び統一を取り戻し、繁栄を享受することとなる。中王国時代の幕開けである。古王国時代のエジプトがナイル川下流域に所在するメンフィスを拠点として栄えたのに対し、中王国時代にはより上流の C が王国の中心となった。官僚機構の整備が進められ、中央集権的国家体制が確立されるとともに、かねてより進められていたナイル川流域の大干拓事業も完成したことで、農業生産は増大し、国家財政も安定化した。にもかかわ

らず、中王国時代もまた終焉の運命を免れることはできなかった。一因となったのは、ヒクソスと呼ばれる異民族の侵入である。

⁽³⁾ ヒクソス侵入以前のエジプトの歴史は、基本的にはナイル川流域を中心とする閉ざされた世界のなかで展開されてきた。対するに、異民族の存在とその脅威を認識した後のエジプト、すなわち、前16世紀より再びの安定期に入る新王国時代のエジプトは、自身を取り巻く世界との対外関係に力点を置く国家運営へと舵を切るようになる。

西アジアに目を向けた積極的遠征はその最たる現れである。たとえば、「古代エジプトのナポレオン」と呼称されるトトメス3世は、オリエント世界において勢力を伸張させていたミタンニ王国に対抗するべく、西アジアへの遠征を17回に渡って行ったことが知られる。なお、遠征とその詳細については、カルナクにある大神殿の壁面に古代エジプトの象形文字で刻まれている。この文字の解読に大きな役割を果たしたロゼッタ＝ストーンがナポレオンによるエジプト遠征の最中⁽⁴⁾に発見されたことを思い起こすならば、実際の解読者は別人であるにせよ、ナポレオンが「ナポレオン」の治績を明らかにしたともいえるようか。^(a)

いずれにせよ、トトメス3世がミタンニ王国に対して強硬路線をとったことは確かである。しかし、その後のエジプトとミタンニ王国との関係は協調路線へと転ずる。北方のヒッタイト王国が覇権を拡大するようになったからである。さらに時代が下ると、今度はヒッタイトとの敵対関係を改めて平和路線へと転向するが、その背景にはヒッタイトに代わって強大化したアッシリア王国の存在があった。⁽⁵⁾⁽⁶⁾

このように、新王国時代エジプトの外政は、急速に国際化するオリエント世界の一員として展開されるようになったのである。一方で、内政面においても、この時代には大きな変化がもたらされた。変革の主導者はアメンヘテプ4世である。彼は、エジプトの伝統的な神々に対する崇拝を禁止し、唯一神としてアトンのみを信仰するよう強制した。改革は徹底的で、新たな信仰の拠点を築くべく都を遷し、王も自らの名前を変更している。けれども、アメンヘテプ4世の信仰改革は、^(b)王の死後まもなく放棄されることとなる。理由の一つには、改革が古代エジプト人の死生観にそぐわなかったことを挙げられよう。ミイラや「死者の書」の作成か

世界史

らもうかがわれるように、人々は靈魂の不滅を信じ、死後の再生と復活を願っていた。ゆえに、その許可を与えてくれる存在である冥界の支配者 D に対する信仰は極めて篤かったが、唯一神に対する信仰の強制は当然この神の存在をも否定したのである。

かくして伝統的信仰は復活を果たしたが、関係する神官団の再興と影響力拡大という事態を同時に引き起こす。結果として、王国は王権と神官団のあいだで分裂した状態となった。新王国の安定期は幕を下ろし、再び複数の王朝が並立する混乱期へと突入する。一時的には統一が回復され、ユダ王国に差し向けられた支援からも見て取れるように、西アジア地域における勢力再興を図るに及んだ時期もあったが、最終的にはオリエント世界の東方に興った⁽⁷⁾アケメネス朝ペルシア⁽⁸⁾に屈し、以後2300年近くに渡って異民族の支配を受け続けることとなる。

問1 下線部(1)に関連して、ナイル川がもたらした恩恵として適切でないものを、

ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 増水と氾濫により上流から沃土が運ばれた。

イ 氾濫後に土地を再区画する必要性から測地術が発達した。

ウ 定期的に発生する氾濫と恒星シリウスの観察から太陽暦が考案された。

エ 流域に生息する動物の獣皮を材料に紙の一種であるパピルスが作られた。

問2 下線部(2)に関連して、ピラミッドに関する説明として最も適切なものを、

ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 日乾煉瓦を積み上げて建造された。

イ 建造が最盛期を迎えるのは新王国時代である。

ウ 原型はマスタバと呼ばれる墳墓であったとされる。

エ 古代エジプト世界以外で類似した形状の構造物は確認されない。

問3 下線部(3)に関連して、ヒクソスに関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア エジプトに戦車をもたらした。

イ 侵入を果たした後、エジプトに定着することはなかった。

ウ シリア方面から到来した農耕民を主とする集団であったと考えられる。

エ 同時期エジプトに侵入した「海の民」とともに中王国を衰退へと導いた。

問4 下線部(4)に関連して、ロゼッタ＝ストーンに刻まれていない文字を、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 神聖文字

イ 神官文字

ウ ギリシア文字

エ 民用(民衆)文字

問5 下線部(5)に関連して、ヒッタイト王国に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 青銅製の武器をはじめて使用した。

イ インド＝ヨーロッパ語系の民族がアナトリアに建てた国家である。

ウ ラメス(ラムセス)3世が率いるエジプト軍とカデシュの地で戦った。

エ カッシート人が建てた古バビロニア王国(バビロン第1王朝)を滅亡させた。

問6 下線部(6)に関連して、アッシリア王国に関する記述として適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ミタンニ王国に服属していた時期がある。

イ 最盛期の王ネブカドネザル2世の時代にエジプトを統治下に置いた。

ウ アッシュルバニパル王の治世下、首都であるニネヴェに図書館が建造された。

エ 滅亡後、エジプト・リディア・新バビロニア・メディアの4王国が分立状態となった。

世界史

問7 下線部(7)に関連して、ユダ王国に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ヘブライ人が統一王国を形成する以前に存在した国家である。

イ 王国を築いたヘブライ人はイスラエル人と同一の民族集団である。

ウ 圧政に苦しむ一部の人々がモーセを指導者としてエジプトへと脱出した。

エ アッシリア王国に征服され、「バビロン捕囚」と呼ばれる住民の強制連行を被った。

問8 下線部(8)に関連して、アケメネス朝ペルシアに関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 世界最古の金属貨幣が造られたとされる。

イ 王国内には複数の王都(王宮)が存在した。

ウ キュロス2世によってエジプトの征服が成し遂げられた。

エ 各地に置かれた「王の目」「王の耳」と呼ばれる知事を介して統治が行われた。

問9 空欄 に入る行政単位の名を解答欄に記入せよ。

問10 空欄 に入る人物の名前を解答欄に記入せよ。

問11 空欄 に入る地名を解答欄に記入せよ。

問12 空欄 に入る神の名前を解答欄に記入せよ。

問13 下線部(a)に関連して、本文中で言及される古代エジプトの象形文字を解読した人物は誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問14 下線部(b)に関連して、アメンヘテプ4世の改名後の名前を解答欄に記入せよ。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

14世紀、北半球を中心に寒冷な気候が続き、自然災害や疫病の流行は東アジアの社会に深刻な影響を与えた。元では社会経済の混乱を背景に、白蓮教徒を中心とした農民による反乱が起きた。その指導者のひとりであった朱元璋は、各地の実力者の協力を得て勢力をのぼし、1368年に南京(応天)を都として明を建て、皇帝の座についた。朱元璋は北伐も進め、同年8月には元の首都である が明の支配下に入った。一方、元の皇帝はモンゴル高原に退き、同地で勢力を保ち、明と対峙していくことになった。

洪武帝は、社会経済の混乱に対処するため、その一環として農村の統制と保護につとめ、全国的な検地をおこない、土地と農民を把握し、治安維持と財政の基盤を固めた。⁽¹⁾ また、政治体制の整備をすすめて皇帝の権力を強化するとともに、君臣や父子の間の秩序を重んじる を官学とし、民衆に対しても儒教に基づく教化と統制をはかった。軍事面においては皇子らを北方の国境に近い要地に王として配置して対モンゴル防衛にあたらせ、対外関係は国家間の冊封・朝貢関係に限定し、海禁政策を実施するなど、内陸・海上ともに厳格な管理体制をとった。

洪武帝の後をついだ 帝は、皇帝の権力強化のため、諸王の勢力削減をはかった。これに対抗して燕王が挙兵し、南京(応天)を占領して帝位を篡奪した。^(A) こうして新たに即位した永楽帝は、皇帝の政務補佐官として を置いた。また、大運河の修復などの輸送路の整備を進めるとともに、都を北京にうつし、対外関係においては積極的な政策を展開した。ベトナム出兵やモンゴル遠征を行うほか、海禁を維持しながら、貿易を行うことを目的の一つとして、南シナ海方面の朝貢国を拡大するべく鄭和の船団を派遣した。

鄭和の船団は から寄港地の提供を受けると、そこを拠点に東南アジアやインド洋沿岸の諸国に赴き、明への朝貢を促した。永楽帝の死後は、明の対外政策は消極的になり、内陸でもモンゴル高原西部の が勢力を強めるようになった。また、鄭和の大遠征の終了にともない、インド洋の諸港と中国を直結するルートも途絶えたが、かわって明の保護のもとで急成長した

世界史

が、インド洋、南シナ海、東南アジアの交易ネットワークと明や琉球を結びつける、海の交易圏の中心的役割を果たすようになった。16世紀に入ると、 C はアジア域内交易への参入を目指す エ によって軍事占領された。 C を拠点として南シナ海に進出した エ は、その後 オ に居住することで中国交易の根拠地を確保しながら、次第にヨーロッパと東アジアを結ぶ交易ルートを支配していった。一方、 明の周縁の外部勢力の ⁽²⁾ なかには、明の貿易統制政策に対する不満を高めるものもあり、彼らによる力の行使は明を大いに悩ませることになった。

世界的な商業の発達と貿易の活発化は、 中国国内の商工業の発展や、貨幣経済 ⁽³⁾ の浸透を促した。綿織物のほか、生糸や絹織物、陶磁器といった商品産業が成長し、ヨーロッパやアメリカへと販路を広げ、大量の銀が中国へ流入するようになった。しかし、商業や貨幣経済の進展にともない、都市と農村では貧富の差が拡大していった。16世紀には官僚になる資格を持つ D と呼ばれる社会階層が地方社会で絶大な政治的・社会的影響力を有するようになった。概ね地主であった D は、免役特権を巧みに利用して土地所有を拡大したのに加え、高利貸しや商業を通じて富を蓄えていたが、農業経営自体は行わず、都市に居住することが多かった。この D や富裕な商人は、都市にあって豪華な生活を享受した。彼らは庭園の建設、骨董の収集、書や絵画の鑑賞などの文化的な生活を送り、学問・芸術においてパトロンの役割を担うことを、自身の社会的地位を高める手段にもしたが、それによって都市文化が花開くことになった。木版印刷による書物の出版も急増し、『 カ 』などの小説や、 科学技術への関心の ⁽⁴⁾ 高まりから多くの実用書も刊行された。 実用書のなかには西洋の科学的知見を扱うものもあった。 ⁽⁵⁾ 一方で、農民には小作料の支払いや借金の返済に加え、官僚・軍隊の維持のために重い税や労役、兵役が課せられ、農村は窮乏した。

b 帝を補佐した B の張居正は、財政再建のための制度の整備や官僚統制を強化する中央集権政策をすすめ、財政の再建と綱紀の粛正に大きな成功を収めた。しかし、張居正が死ぬと、 b 帝は奢侈にふけり、政治を怠るようになって、政治は腐敗した。さらに大規模な外征が続いたことで、財政も一気に傾くこととなった。時の政治に批判的だった官僚の顧憲成は故郷の無錫

に帰り、宋代に同地にあった学校である 書院を再興した。 書院には、為政者に批判的な知識人や官僚が集うようになり、 派(党)と呼ばれる政治集団を形成するようになった。 派は幅広い支持を受けて次第に勢力を強めたが、その一方で朝廷の政治を握る官僚と宦官(非 派)から弾圧を受けるようになった。その後も政争がくり返され、政治は混乱することになった。

そして17世紀にはふたたび地球規模の寒冷化で自然災害が多発し、農村は疲弊したが、政争のため有力な手は打たれず、暴動・反乱が続発し、明の統治は衰えていった。

問1 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群からそれぞれ一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

[語群]

- | | | | |
|--------|---------|---------|----------|
| 1 厦門 | 2 オイラト | 3 オランダ | 4 カラコルム |
| 5 金陵 | 6 考証学 | 7 紅樓夢 | 8 西遊記 |
| 9 朱子学 | 10 女真 | 11 スペイン | 12 大都 |
| 13 台湾 | 14 タタール | 15 桃花扇 | 16 ポルトガル |
| 17 マカオ | 18 陽明学 | | |

問2 空欄 と に入る語句の最も適切な組み合わせを、以下のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|---|------|------|
| ア | a 建文 | b 正統 |
| イ | a 建文 | b 万暦 |
| ウ | a 正統 | b 万暦 |
| エ | a 万暦 | b 建文 |

世界史

問3 下線部(1)に関連して、洪武帝の統治に関する記述として適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 新税法を整備し、全国的に一条鞭法を実施した。
- イ 中書省と宰相職を廃止し、六部を皇帝直属にした。
- ウ 村落組織として里甲制を定め、里ごとに里老人を置いた。
- エ 土地台帳の魚鱗図冊や戸籍・租税台帳の賦役黄冊を整備した。

問4 下線部(2)に関連して、15～16世紀に明を悩ませた外部勢力は「北虜南倭」と称されるが、当時の周縁の外部勢力の動向に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア タタールのエセンが明に侵入し、北京を包囲する事件が起きた。
- イ 親征した土木堡で、皇帝がアルタン＝ハーンに捕えられる事件が起きた。
- ウ 倭寇の王直は平戸や五島列島を拠点に東シナ海で海賊行為を繰り返した。
- エ ツングース系の女真族では建州部が強勢となり、ヌルハチにより後金が建国され、明を圧迫した。

問5 下線部(3)に関連して、明の商工業や経済に関する記述として適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 長江の中流域が大きな穀倉地帯となり、「湖広熟すれば天下足る」と言われるようになった。
- イ 遠隔地商人の中心的存在であった山西商人や徽州商人は、政府と結びついて巨富を築いた。
- ウ 長江下流域では綿織物や絹織物などの手工業が発展し、とりわけ蘇州は絹織物業により大いに繁栄することになった。
- エ 大都市に住む大商人により会館・公所と呼ばれる公共施設が作られ、全国から集まる商人の集う場とされ、これにより商業活動が促進された。

問6 下線部(4)に関連して、『天工開物』の著者として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 郭守敬 イ 徐光啓 ウ 宋応星 エ 李時珍

問7 下線部(5)に関連して、中国に入ったキリスト教宣教師は西洋の科学を扱う書物の作成にも関わったが、宣教師とその人物が作成に関わった書物の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア	マテオ＝リッチ	『皇輿全覧図』
イ	フランシスコ＝ザビエル	『坤輿万国全図』
ウ	アダム＝シャル	『崇禎暦書』
エ	フェルビースト	『幾何原本』

問8 下線部(A)について、燕王が起こした反乱の名称を解答欄に記入せよ。

問9 文中の空欄

B

 に入る最も適切な語句を解答欄に記入せよ。

問10 文中の空欄

C

 に入る最も適切な語句を解答欄に記入せよ。

問11 文中の空欄

D

 に入る最も適切な語句を解答欄に記入せよ。

問12 文中の空欄

E

 に入る最も適切な語句を解答欄に記入せよ。

世界史

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

19～20世紀は、移民の時代だった。西洋諸国の海外進出や交通手段・情報技術⁽¹⁾の発達により世界の一体化が進むなかで、グローバルな規模での人の移動が活発になった。

まず、ヨーロッパからの移民に注目してみよう。19世紀中頃に顕著な増加をみせたのは、A からアメリカへの移民である。当時のA はイギリスの一部だったが、ジャガイモの凶作を原因とする大飢饉がおこると、100万人以上が国外に脱出した。このうち約70万人がカナダやアメリカに渡ったとされる。

19世紀後半には、ロシア、南欧、東欧出身者やユダヤ人の移民が増加した。このうちユダヤ人については、ロシア帝国での迫害をきっかけに大規模な人口移動がおこった結果、多くがイギリスやアメリカに向かった。イギリスでは、ユダヤ人移民の規制を主たる目的として、1905年に外国人法が制定された。⁽³⁾

イタリアやポーランド⁽⁴⁾などからアメリカに渡る人の数も増加した。これらの人々は新移民と呼ばれ、アメリカ社会の主流であったWASPとは文化的・宗教的に異なることから、当初は差別の対象となった。新移民は都市でスラムを形成し、選挙では自身の生活を助けてくれるボス政治家の求めに応じて票を投じたことから、貧困問題や政治腐敗との関連で語られるようになった。こうした状況に危機感を抱いた改革主義者たちは、独占の規制や労働者の保護を含む社会改革と政治の浄化を求める運動を開始した。これらの運動は、B 主義と総称される。B 主義を標榜した代表的な政治家としては、セオドア・ローズヴェルト⁽⁵⁾大統領をあげることができる。

アジアに目を転じよう。19世紀から20世紀にかけて、アジア系移民の数も増加した。インド⁽⁶⁾からは、1830年代以降の1世紀間で、およそ130万人が年季契約労働者としてイギリス帝国各地に送り込まれた。彼らの多くは奴隷制廃止により解放された黒人奴隷の代わりとして、肉体労働に従事した。その一方で、自由移民として海を渡るインド人もいた。南アフリカで事業を営むインド系商人に招かれて同地を踏んだ弁護士C も、そのひとりであった。中国からの移民も増えた。彼らの大部分はアジアに向かったが、アメリカやイギリス植民地のオー⁽⁷⁾⁽⁸⁾

ストラリアなどで働く者もいた。

日本でも、明治時代から移民労働者がみられるようになり、その数はデフレ⁽⁹⁾の影響で庶民が困窮した時期に増加した。19世紀中に多くの日本人を受け入れたのは、である。日系移民たちは砂糖プランテーションなどで肉体労働に従事する一方で、日本文化を現地に伝えた。その影響は現在でもみられる。

は1898年にアメリカに併合された。

19世紀末から20世紀初頭にかけて、西洋世界ではアジア系移民を排斥する動きが強まった。移民排斥の手段として用いられたのは、語学試験だった。南アフリカのイギリス植民地ナタールは、移民にヨーロッパ言語のテストを課して合格者のみに入国を許可する制度を導入し、アジア系移民(とくにインド系)の流入を制限しようとした。移民政策を含む人種差別立法は、南アフリカに住むインド系住民の反発をひきおこしたが、このときに抗議運動を率いて名をあげたのがだった。彼は、南アフリカでの政治活動の経験からサティヤーグラハと呼ばれる方法を編み出し、インド帰国後に民族運動の指導者として活躍した。その一方で、ナタール方式は、アジア系移民の排除をねらう他のイギリス植民地によって模倣された。そのひとつであるオーストラリアでは、非白人を排除することでヨーロッパ系住民が支配する社会の維持を目指す主義が推し進められた。主義は第二次世界大戦後まで続いた。アジア系移民は、西洋諸国やその植民地で安価な労働力として用いられる一方で、その存在が脅威として受け止められるようになると、排除されていったのである。

問1 下線部(1)に関連して、19世紀における交通手段や情報技術の発達に関係しない事柄を、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 蒸気船が大西洋横断に成功
- イ パナマ運河の完成
- ウ モース(モールス)による電信機の発明
- エ 大西洋を横断する海底電信ケーブルの敷設

世界史

問2 下線部(2)に関連して、19世紀後半のロシア帝国に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア プガチョフの農民反乱がおこった。

イ オスマン帝国とたたかい、サン＝ステファノ条約を結んだ。

ウ ストルイピン首相のもとで、土地改革をすすめようとした。

エ ガージャール朝とたたかい、トルコマンチャール条約を結んだ。

問3 下線部(3)に関連して、1905年におこった出来事に含まれないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 英露協商の締結

イ 日露戦争の終結

ウ 中国同盟会の結成

エ イラン立憲革命の開始

問4 下線部(4)に関連して、ポーランドが18世紀末に分割された際に抵抗運動を率いた人物の名前を、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ナジ

イ ワレサ

ウ コシュート

エ コシューシコ

問5 下線部(5)に関連して、セオドア＝ローズヴェルト大統領の時代のアメリカに関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ワグナー法が制定された。

イ アメリカ＝スペイン戦争がおこった。

ウ パナマをコロンビアから分離独立させた。

エ シャーマン(反トラスト)法が制定された。

問6 下線部(6)に関連して、19世紀中頃のインドでおこったインド大反乱に関する記述として適切ではないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 反乱は南インド全域にひろがった。
- イ 反乱軍はムガル皇帝を盟主として擁立した。
- ウ 反乱にはヒンドゥー教徒とムスリムがともに加わった。
- エ イギリス東インド会社のインド人傭兵の蜂起が、反乱のきっかけとなった。

問7 下線部(7)に関連して、アメリカが中国人移民を受け入れた事情の説明として適切ではないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 善隣外交の展開
- イ 大陸横断鉄道の建設
- ウ カリフォルニアでの金鉱発見
- エ 南北戦争後のアメリカ西部の開拓

問8 下線部(8)に関連して、オーストラリアに関する記述として正しいものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 囚人を送り込む流刑植民地であった。
- イ 19世紀後半にオーストラリア連邦が成立し、自治領となった。
- ウ 白人植民者は先住民のマオリを征服しながら領土を拡大していった。
- エ イギリスは19世紀前半にニューサウスウェールズの領有を宣言した。

問9 下線部(9)に関連して、1880年代初頭の日本でおこったデフレは、しばしば当時の大蔵大臣(大蔵卿)の名前を冠して称されるが、その人物の名前を、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 伊藤博文 イ 大隈重信 ウ 板垣退助 エ 松方正義

世界史

問10 文中の空欄

 ～

 に入る最も適切な語句を解答欄に記入せよ。ただし、

 と

 は漢字で記すこと。

(白 紙)